

洗足学園音楽大学

# 管弦打コンチェルトの夕べ

2020年11月9日(月)開演18:30(開場18:00)

洗足学園 前田ホール

主催:洗足学園音楽大学・大学院

## PROGRAM

R.ベネット／打楽器協奏曲

Richard Bennett (1936-2012) // Concerto for Solo Percussion and Chamber Orchestra

打楽器独奏 森 奈那子 (学部3年)

R.シュトラウス／ヴァルトホルンと管弦楽のための協奏曲 変ホ長調 作品11

Richard Strauss (1864-1949) // Konzert für Waldhorn und Orchester Es-Dur op.11

ホルン独奏 直田 真潮 (学部1年)

～休憩～

A.グラズノフ／アルト・サクソフォーンと弦楽オーケストラの為の協奏曲

Aleksandr Glazunov (1865-1936) // Concerto pour saxophone alto et orchestre à cordes

サクソフォーン独奏 秋山 圭輔 (学部4年)

J.シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品47

Jean Sibelius (1865-1957) // Violin Concerto in D Minor op.47

ヴァイオリン独奏 松本 志絃音 (学部3年)

## GREETING

本日はコロナ禍の最中、ご来場頂き誠にありがとうございます。

この演奏会は2年に一度、本学部管(木管・金管)、弦、打楽器コースから、オーディションを行い、ソリストを決め開催されます。

演奏者にとりまして、オーケストラと共演する事は生涯でも一度あるかないかとても特別で、作品本来の音を聴ける大変貴重な機会でもあります。特に今般の新型ウイルス問題では、対面の尊さをしみじみ感じますが、このような瞬間をぜひ味わい堪能して頂けますと幸いです。

どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

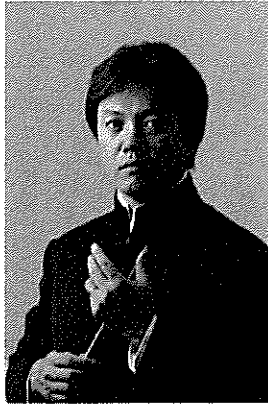
管楽器コース統括責任者 教授 岩本 伸一

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒、手洗い、咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発声明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

## PROFILE

### 指揮 現田 茂夫



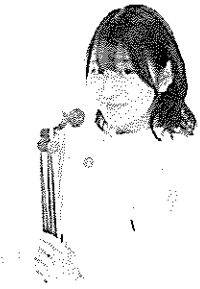
©K.Miura

東京音楽大学作曲指揮専攻で汐澤安彦、三石精一両氏に師事。その後東京藝術大学で佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。1985年安宅賞受賞。神奈川フィルハーモニー管弦楽団名誉指揮者。他、国内外の主要オーケストラも指揮し好評を得ている。世界的チェリスト故ロストロポーヴィチ氏と上皇后陛下の古希祝賀コンサート等でも共演し好評を博す。オペラ指揮者としても経験豊かで、東京二期会、関西二期会、錦織健プロデュースオペラほか、海外の劇場での指揮も行っている。また、ペドロッチェ国際指揮者コンクール(イタリア)の審査員やNHK-FMラジオのパーソナリティを3年間務めるなどバラエティに富んだ活動を行っている。

### 打楽器独奏 森 奈那子

8歳より打楽器を始める。埼玉県立伊奈学園総合高等学校芸術系(音楽)卒業。在学中、オーディション合格者による定期演奏会に出演。現在、洗足学園音楽大学3年次在学中。2018年度、2019年度実技試験において最優秀賞を受賞。これまでに打楽器を篠塚裕美子、渡邊弥生に師事。

現在、打楽器全般を石井喜久子氏に師事。



### ホルン独奏 直田 真潮

千葉市立稲毛高等学校出身。13歳よりホルンを始める。第29回千葉県吹奏楽個人コンクールにて金賞、審査員特別賞、賛助会員賞(グランプリ)、第15回日本管弦打楽器ソロ・コンテストにて金賞、埼玉県知事賞、第21回日本ジュニア管打楽器コンクールにて金賞を受賞。ホルンを大森啓二、土谷瞳の両氏に師事。



### サクソフォーン独奏 秋山 圭輔

東京都狛江市出身。12歳よりサクソフォーンを始める。東京都立杉並高等学校卒業。洗足学園音楽大学4年次在学中。これまでにサクソフォーンを國末貞仁氏、室内楽を池上政人氏に師事。第75回東京国際芸術協会新人演奏会にて審査員賞を受賞。第1回東京国際管楽器コンクールにて第4位受賞。



### ヴァイオリン独奏 松本 志絃音

第7回クオリア音楽コンクール高校生の部第1位。第20回日本演奏家コンクール弦楽器部門大学生の部第2位、合わせて横浜市長賞。第36回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール弦楽器部門大学生の部第1位。これまでにヴァイオリンを澤和樹、曾我部千恵子、沼田園子、和波孝禧、ヴィオラを古川原裕仁、室内楽を大野かおる、安永徹・市野あゆみの各氏に師事。ピエール・アモイヤル氏のアカデミー受講。また、学内においてオレグクリサ、竹澤燕子、ライナー・シュミット、フェデリコ・アゴスティーニの各氏による特別レッスンを受講。現在、洗足学園音楽大学にオーケストラ特待生として在学中。



## PROGRAM NOTE

### R.ベネット／打楽器協奏曲

リチャード・ロドニー・ベネット(1936-2012)は、イギリスの作曲家。ジャズを愛し、映画音楽(「オリエント急行殺人事件」他)を中心にオペラ、合唱、管弦楽、器楽など幅広いジャンルの作品が残されている。この曲は1990年にエヴェリン・グレニーの委嘱により、セントマグナスインターナショナルフェスティバル(スコットランドの芸術祭)のために作曲された。1、2、4楽章では膜鳴・金属・木質打楽器をそれぞれ音階をつけるように並べて演奏する。

#### 第1楽章

金管楽器、弦楽器、膜鳴楽器の掛け合いによる生き生きとした曲調で幕を開ける。ベルツリーの一撃とフルートのソロで場面は一変し、ゆったりとしたテンポの中で木管楽器と金属楽器が絡み合う。オーボエと木魚のリズミカルな掛け合いを経て、徐々にまた速く生き生きとした曲調に戻る。カデンツァのソロを各楽器で伸び伸びと歌い上げた後、静かに終わる。

#### 第2楽章

8分の6拍子で軽やかに始まり、チェロのソロをきっかけに落ち着いた曲調へと変化する。ヴァイオリンの情熱的なメロディをそのまま金属楽器が受け継ぐ。8分の6拍子の特徴的なリズムと共に曲は進み、オーケストラのトゥッティのアクセントを伴奏に膜鳴楽器がメロディとなり、さらに激しさを増す。次第に曲は落ち着きを取り戻し、木魚がリズムカル鳴り完全に静まりかえったと思えば、冒頭のリズムが再び登場し終了する。

#### 第3楽章

前半はアドリブのようなマリimbaとそれに寄り添うかのような弦楽器のやりとりが続く。それぞれは次第に気持ちが高み上げるように膨らみ、後半へと続く。弦楽器のメロディとマリimbaの速いパッセージの掛け合いはそのまま収束へと向かい、4楽章へ突入する。

#### 第4楽章

膜鳴楽器とピチカートによる怪しげな雰囲気が開けると、フルートの軽やかなリズムと金属楽器と木質楽器が彩りを添える。木管楽器と金属楽器のメロディにスネアドラムが合いの手のように鳴り、それが終わると突然木質楽器、膜鳴楽器の生き生きとしたメロディが始まる。弦楽器と木管楽器の間奏の後、ティンパニと膜鳴楽器、サスペンドシンバルのデュオに移り変わる。そしてアゴゴベルが高らかに鳴り響き、曲はそのまま収束へと向かう。

### R.シュトラウス／ヴァルトホルンと管弦楽のための協奏曲 変ホ長調 作品11

18歳という若さでありながら作曲されたこの曲は、優れたホルン奏者である父親フランツ・シュトラウスの60歳の誕生日を記念し作られた。リヒャルトが残したホルン協奏曲は第二番までであるが、第一番との間には60年の時が経つ。この曲にはピアノ伴奏版もあり、1883年にミュンヘン音楽連盟にて独奏はフランツの弟子であるブルーノ・ホイヤーによって初演された。この曲は3つの楽章が切れ目なく演奏される。

第一楽章、Allegro 自由なロンド形式 変ホ長調。煌びやかな主題から始まる。第二楽章、Andante 変イ短調→ホ長調→変イ短調。三部形式であり、第一楽章から導かれた旋律で始まる。中間部では迫力のある長調のメロディが歌い上げられた後、回想場面に入り静けさが戻る。第三楽章、Rondo Allegro 変ホ長調 8分の6拍子。陽気で明るい旋律から始まる。中間部では第一楽章の主題が顔を見せ、最後は華やかに曲を終える。

### A.グズノフ／アルト・サクソフォーンと弦楽オーケストラの為の協奏曲

グズノフ(1865~1936)は早熟の天才としてロシア5人組の1人であるバラキレフを唸らせ、バラキレフが彼の作品をリムスキー=コルサコフに紹介したことで、弱冠15歳にしてこの2人に才能を認めさせた。歳を重ねるにつれて創作意欲は著しく減っていき、そんなグズノフの晩年の作品がこのサクソフォーン協奏曲である。1933年、グズノフ作曲のサクソフォーン四重奏曲作品109をサクソフォーン奏者であるシガード・ラッシャーが聴き、それに感銘を受けた彼が委嘱し作曲された。古典派、ロマン派の作品に恵まれないサクソフォーンにとって貴重なレパートリーである。

第一楽章の作品だが、「Allegro moderato」「Tranquillo」「Allegro」の3つの部分に大きく分かれており、古典的な協奏曲の構成となっている。「Allegro moderato」では第一主題、第二主題が提示される。この2つの主題が抒情的に、時には激しく熱情的に、拍子や速度を巧妙に変化させていきながらカデンツァへ、そしてフーガへと発展する。変化を遂げていった2つの主題が底に宿る熱い胸懷を解放していくように展開していき、やがて全ての主題がサクソフォーンとオーケストラと繊細に織り合わさっていき、最初の第一主題へと回帰し、壮大なフィナーレを迎える。

## J.シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品 47

シベリウスのヴァイオリンコンチェルトは1903年に初稿版が作曲され、現在演奏されている現行版は1905年に改訂された。フィンランドの自然の美しさや厳しさを表現されていると共に、ロシアとの確執など社会問題にも深く関係があるとされている。

コンチェルト初演の際のプログラムには、自身の男性合唱曲〈お前には勇気があるか〉という戦いへの参加を彷彿とされる歌詞の曲とともに演奏されたという話がある。フィンランドの暗黒時代でもあった時に作られたこのヴァイオリンコンチェルトは美しさの中に計り知れないエネルギーが込められていると感じる。

第1楽章 Allegro moderato ニ短調

自由なソナタ形式をとり、展開部にヴァイオリン独奏の大規模なカデンツァが置かれている。

第2楽章 Adagio di molto 変ロ長調

3部形式の緩徐楽章。穏やかな木管のアンサンブルに導かれるようにソロが入ってくるが、弦楽器による力強い場面転換によって劇的な中間部を迎える。再び穏やかな主部主題が提示され楽章は静かに閉じられる。

第3楽章 Allegro ma non troppo ニ長調

民族舞曲の要素が入った自由なロンド形式。力強い活気に溢れた楽章で、短調になる第2主題は作曲者が「死の舞踏」と説明している。

## MEMBERS

Concert Master 三島 彩

Violin 1 菱田 あゆみ 林 桃子 濱川 夏楠 谷向 佑香

蛭名 桃子 成田 叶 北川 乃梨子 竹重 夏野

Violin 2 福田 菜々子 大谷 桜子 大江 沙耶 舘村 結

筆氏 くらら 木村 蒼 米屋 舞 井上 葵

Viola 有福 佑依 福田 真智子 堀口 健人

菅野 千怜 後藤 悠太 竹下 明日菜

Cello 荒 庸子\* 鈴木 岳 大友 美侑 加賀谷 ひなた

Contrabass 本橋 和樹 遠藤 可奈子 安田 廉

Flute/Piccolo 有田 紘平 幅 絵理香

Oboe/English horn 土屋 愛菜 中村 紫苑

Clarinet/Bass Clarinet 森 卓也 岩村 麻里子

Bassoon 興津 諒 春山 竜也

Horn 大塚 季 石塚 麻純 矢吹 日香理 間遠 容子

Trumpet 中西 あづさ 宮本 優希

Trombone 松本 弥津希 工藤 悠太 森 秀人

Timpani 小林 大和

\*教員

運営責任者 岩本 伸一

洗足学園フィルハーモニック管弦楽団

芸術監督 秋山 和慶

運営委員長 渡部 亨

副運営委員長 水野 佐知香 石井 喜久子

アカデミックコーディネーター 岩岡 一志

助手 鳥越 濯 中村 日向子 城野 裕子